

海外派遣生徒の発表会を振り返って 10月4日(木)

1年生

10月4日(木)の7時間目の「総合的な学習の時間」を利用して、「海外派遣生徒の発表会」を三稜館で1年生対象に行いました。

今回の講師は、本校の1, 2年生で本年度海外に派遣された17名(2年生15名、1年生2名)でした。

まず、夏休みにオーストラリアへ語学研修に行った2年生14名が発表してくれました。

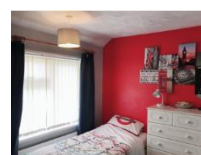
派遣先でのプログラムの内容を交代しながら、手際よく説明してくれました。自然豊かな環境の中で、語学を学んだりオリジナルのブーメランを作成したりして、日本では体験できない多くのことを体験してきました。



途中で「VEGEMITE」という食べ物を紹介し、食べてみたい人を募りました。4名の生徒が試食しましたが、全員「おいしくない。」「薬のような味がする。」などの感想を述べました。味が個性的であることが全員に伝わる上手な説明でした。



次に、東海東京財団の「高校生海外派遣助成」制度を活用し、夏休みにイギリスのロンドンへ3週間留学した生徒の体験を聞きました。これは、ハブスクールである本校で助成の条件に該当した生徒に、海外派遣費用のいくらかを助成するという制度です。



該当の生徒は、この制度を活用して3週間でさまざまな国の学生と出会い、語り合い、それぞれの国の紹介をしたそうです。その中には、日本のアニメを紹介する機会もあったようです。「クールジャパン」を身をもって体験することができた瞬間でした。

次に、愛知県高校生訪問団京畿道派遣事業を活用して、夏休みに韓国の京畿道へ派遣された生徒の話をお聞きました。



韓国の高校に行った際の熱烈な歓迎ぶりや食堂の昼食がとても辛かったことなど、興味深い内容を語ってくれました。特に生徒達が関心をもったのは、韓国の学校は基本的に男女別学であるということでした。普段、「普通」だと思っていることが、国が変われば「普通」ではないことを実感した瞬間でした。最後に韓国の人たちの日本人に対する優しさを強調して、話を結びました。

最後は、愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業を活用して、夏休みにタイ王国のバンコク都に派遣された生徒の話の話を聞きました。

タイの食事や寺院の建築様式、車の渋滞の激しさやタイに進出している日系企業のことなどを紹介した後、タイ王国の説明を詳しくしてくれました。バンコクの人口は820万人であること、国王が国民全体から崇拜されていることを説明してくれました。また、わずかな時間しか一緒にいらなかったバディが、別れの時涙を浮かべて優しく接してくれたことを語ってくれました。人の優しさをたくさん感じる事ができた体験をしてきました。

What is バンコク都！！！！！！！！

- กรุงเทพมหานคร อมรรัตนโกสินทร์ มหินทรายุธยา มหาดิลกภพ นพรัตนราชธานีบูรีรมย์ อุดมราชนิเวศน์มหาสถาน อมรพิมานอวตารสถิต สักกะทัตติยวิษณุกรรมประสิทธิ์
- タイ王国の首都
- 人口 約820万 都市圏人口は1500万以上！
- 世界で最も外国人が訪れる都市

今回の発表会で、海外体験をした生徒達の体験談が興味深いことはもちろん、彼らの発表ぶりが自信に満ちていることが、いたるところで感じられました。彼らの体験は彼らの中で自信に変わって、知らず知らずのうちに本人の人間的な成長につながっていることを感じた1時間でした。

11月には、タイから本校に10名の高校生が来ます。今日の話は、その時に津島高校生としてどう対応するかについて、たいへん示唆に富んだ報告でした。ぜひ、タイの生徒が来校した際に活かしてほしいと思います。